



2008.12.5
第137号

発行
村会会 支会会 支会会
町員議 支支支
市協議 津支支
県教委 津沼
島育協 会麻沼
福教連 北耶両

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

「教育のこと」



会津教育事務所域内三支会
連絡会長 新城猪之吉

「教育のこと むずかしや 虫を聴く」

これは私の祖父が戦後まもなくの福島県教育委員会委員長の時に詠んだ句である。ある学校でトラブルが起き、どうするか思い悩んだ時に庭の美しい虫の音を聴いて無になれ、冷静な判断が下せた時の句であると後に語っていたそうだ。教育のことの難しさは、六十年前の祖父の時も今も変わらない。

子供が受ける義務ではなく、大人が子供に教育を受けさせる義務であるはずなのに！
国は教育について様々な試行錯誤をしてきた。最近ではゆとり教育の提唱であった。その思惑は大変立派なものであったが、実行となるとなかなか思惑通りにいかなかったようである。子供達を実験台にしないよう配慮しなければと思う。

昔、会津には素晴らしい学校があった。十八世紀末に冷害が全国で起き、天明の大飢饉と言われるものが起きた時、会津藩の家老田中玄宰が藩体制直しの為、様々な策を打った。米経済から貨幣経済への脱皮の為の産業興しを。でも一番大切な事は、どんな事が起きてもそれに立ち向かえる人を育てる事として、日新館と言う藩校を作った。ここでの教えの素晴らしさは、明治という近代への黎明期に活躍した人の中に、会津人がいかに多いかからも分かる。しかし、戊辰戦争がなかったら、もっと多くの会津人が活躍していたに違いない。とても残念である。

教育の事は誰でも語れる。政治経済の事は少々勉強せねば語れないが、教育の事は何人も語るものである。自由の事、権利の事。しかし実行面を見るとどうか？ただの無責任であったり、我がままだったりするのである。誰でも一見正しいような事を言うから、教育の事は難しいのであろう。

教育の基本は家庭の躰から始まる。躰に始まり躰に終わる。我々には幸いにして什の掟からきた会津っこ宣言がある。これを教本にして進めていけば良いと思う。

「ならぬことはならぬ」ことさえ教えておけば、と思う今日この頃である。

管理課だより

各学校では、校内服務倫理委員会等で様々な不祥事・学校事故防止の取組みが行われていますが、今年度は、様々な不祥事が頻発し、教職員の危機意識の高揚と持続、そして各校の実態に応じた実効ある取組みが今後強く求められています。特に、次の事項について努力をお願いします。

より教職員一人一人の実態に即した指導ができるように改善するとともに、危機意識の高揚と持続を図る。

特に、セクハラ・体罰・速度超過等の事故防止の徹底を図るとともに、個人情報等の管理については、保護管理体制の現状と遵守について再確認し、事故防止を図る。

学校管理における校内体制の改善・充実

学校事故防止

○ 自校の課題への対応策を再確認し、全教職員の共通理解に基づく実践が確実にできるようにする。また、事故やトラブル等が発生した場合に、適切な初期対応ができるように、管理職への迅速な報告体制を再確認する。

○ 日常の巡視・点検等の徹底を図り、施設、火気管理、可燃物撤去等を完全に行い、瑕疵による学校事故(特に学校火災)の絶無を期する。

少人数教育の充実

○ 学力実態調査等の結果等を生かし、学力向上に向けて少人数教育の改善・充実を図る。

教職員の不祥事防止

○ 校内服務倫理委員会の内容・方法を再検討し、

公民館訪問を終えて 社会教育課

今年度も13市町村すべての公民館訪問を実施させて頂きました。本年度の公民館運営の重点や、現在公民館が抱えている課題などについて協議し、今後の公民館の在り方について有意義な話し合いの場を設定して頂きました。特に「生涯学習による地域づくりの促進」、「学社連携事業の推進」などについての協議テーマが多かったようです。

生涯学習振興行政・社会教育行政の再構築が求められている中、特色のある活動を展開している事例についてその一端を紹介します。

「こころ豊かな人を育む まちづくり」をめざして 西会津町公民館

○「まちづくり基本条例」の啓発

条例は、町民を中心に議会・行政の三者がそれぞれの役割を果たすと共に、協力していく「協働によるまちづくり」を推進することをねらいとし、平成20年4月1日にスタートしました。公民館の各種講座などの時間を活用して、条例の概要を説明し啓発活動を積極的に展開しています。

○「住民のニーズ調査と積極的な情報提供」

町民の各年齢層における学習に関する意識を

調査し、ニーズに対応した講座を設定しています。

町のケーブルテレビや広報誌などを活用し、講座の紹介を積極的に行っています。平成20年度には、出前講座を含めて64の事業を展開しています。

○「学社連携による定住の促進」

学校における総合的な学習の時間などとタイアップし、公民館が自然や環境、歴史、文化財、産業など町の良さを学ぶ学習の支援を行い、郷土愛を育み、子ども達の定住促進に努めています。



○「地域づくり活動を促進する人材の育成」

町内の歴史をはじめ、様々な分野で講師として活動できる「生涯学習ボランティア」の人材発掘と活動機会の提供に努めています。

「学校訪問Ⅰ」を終えて 指導課

「会津の教育の重点」を指導・助言の柱として幼稚園12園 小学校24校 中学校12校を訪問させていただきました。以下は、訪問を通して見られたよさ(◎)と課題(●)です。今後の指導改善のために参考にしてください。

1 確かな学力の向上を図る学習指導の充実・改善

- ◎ 学力向上グランドデザインに基づいた組織的な取組み(週案を活用してのPDCAサイクルの具体化)
- ◎ めあてとまとめを意識した授業づくり(自己評価活動の工夫と実感を促すまとめの活動)
- 原因分析(教師の授業スタイルまで含んだ)まで行う実態把握に基づいた手だての絞り込み
- めあての明確化、追究意欲の引き出し、話し合い活動の充実、「させる家庭学習」からの脱却

2 豊かな人間性・社会性の育成

- ◎ よさを認め合える活動の実施(縦割り班活動、各種体験活動の充実等)
- ◎ 「話し合いは聞き合い」を大切にした授業づ

くり

- 道徳の授業に対する教職員の意識の高まり
- 学級の規則や人間関係を大切にされた学級づくりのための研修の強化

3 体育・健康に関する指導の充実

- ◎ 自校の課題を明確にふまえた実効ある運動プログラムの実施、学校栄養職員等との連携を図った食育の展開
- ◎ 体験を位置付けた危険回避能力育成の取組み
- 各取組みの質的向上、組織的な取組み

アンケート「学校訪問を終えて」より

〔より聞きたい点について〕

- ◆ 指導の手だての明確化・・・22校
- ◆ 個に応じた指導・・・21校
- ◆ ねらいに沿ったまとめのしかた・・・17校
- ◆ 教材の価値の把握・・・15校
- ◆ 自力解決・表現の場の位置付け・・・15校

今後の指導助言に生かしてまいります。

我が村からの情報発信

湯川村教育委員会

湯川村は会津盆地のど真ん中に位置し、面積が約16㎢と、県内でも一番小さな自治体です。

平安初期に徳一上人の建立された勝常寺に、国宝の薬師三尊を拝していることを村民の誇りとしています。湯川村は稲作地帯ですので、村の子どもたちも、総合的な学習の時間で、田植えや稲刈りなどの農作業体験を行っています。

今年、食育推進モデルの地域指定をいただき、「ゆがわっこ食育」の旗の下で地元食材を使った「まごころ給食」を提供しているところです。

農家のおばあちゃんたちが、まごころ込めて育てた野菜で、給食センターを支えていただいているお陰で実現しています。子どもたちはもちろん村に転入してこられた先生方からも「給食がおいしいね」と、ほめていただけるのが、とてもうれしいことです。

ところで、本村も例外なく少子化の波をかぶっているところですが、2つの幼稚園を統合し新しく「感動と優しさが飛び交う幼稚園」を建設中です。来春から80名の園児たちの歓声が、田んぼのど真ん中から聞こえてくる予定です。



栄養技師とのT・T食育授業

教育に寄せる思い

猪苗代町教育委員会教育長
土屋 重憲



深刻な世界規模の金融不安の中で、4名の邦人科学者によるノーベル賞受賞のニュースが日本列島を駆け巡った。先行きの不安と同時にわが国の底力のよ

うなものも感じたものである。湯川博士から続くという素粒子理論の世界、何のことだか私には全くわからない。

彼らが発見、立証した科学的真実は条件さえ整えば何度でも繰り返す。しかし、人生において再びノーベル賞を取るかどうかはわからない。これが科学的真実と人生のそれとの違いである。

きざな言い方であるが、教育とは、二度と繰り返すことのできない、一回限りのそれぞれの人生に向き合う仕事である。

全国生涯学習フェスティバル報告

参加・体験型の学びの祭典である第20回全国生涯学習フェスティバルが10月に開催されました。

地域開催記念事業として、11日(土)には喜多方市で「親父バンド」&「ストリートバンド」コンサートを開催しました。音楽好きな会津出身の若者及び団塊世代が、歌手の「阿呆鳥」と「ナスカ」の支援を受けながら演奏を発表し、音楽に親しむ仲間の輪を広げることができました。

12日(日)には、会津若松市において「若者世代に贈る未来へのメッセージ」というタイトルで、幸楽苑社長の新井田博氏と北京オリンピックマラソンに出場した佐藤敦之選手をパネラーとしたディスカッションを開催しました。

お二人からは、それぞれの人生哲学や夢を持つことの意義、これからの会津に期待すること等について熱く語って頂きました。

参加者は両会場共に500名を越し、事業内容も大変好評でした。今回の事業を通して、多くの「まなび」を発見することができ、当初のねらいを達成した意義のあるフェスティバルとなりました。



出前講座、学校開放講座等による地元小・中学生との交流活動について

「工業高校生が講師役」

福島県立会津工業高等学校 地域連携推進部

本校では毎年、専門学科の特色を生かし、陶芸教室、ロボット製作、万華鏡工作などの出前講座や学校開放講座を行っている。生徒が講師役となり、子どもたちに製作活動を通して、ものづくりの楽しさや素晴らしさを伝えている。

今年度は小金井小学校の文化祭で、小高連携の陶芸教室を開き、ろくろ成形やマグカップ作りを教え、交流を深めた。また、昨年度は会津大学を会場にふれあい陶芸教室を開いたところ、親子で約100名の参加者があり、大好評であった。

会津ブランドものづくりフェア「ものづくり学園祭」では、「見る・触れる・作る・学ぶ」をコンセプトに、小中学生を対象にしたものづくり体験型のブースを多数設けた。フェア全体で中学生以下の来場者数は約8,700人であった(今年度)。

この学園祭では、サッカーロボット対抗戦「ロボコンinあいづ」も開き、小学生から大人までの28チームが出場し、小学生チームが見事優勝した。小学生らは本校・喜多方工業高校生のサポートを受けて製作したものである。次年度も開催予定。



作品と指導

工作

『森のぶたさん』



会津若松市立川南小学校
4年 長郷 真理子

会津自然の家で「森のぶたさん」を作りました。

枝を切ってできる形や組み合わせてできる形から、作りたいものの発想を広げて、楽しみながら作ることができました。節や木目が自然材の味わいを感じさせています。

指導者 鈴木裕子・一ノ関由紀子

習字

『神話伝説』



喜多方市立塩川中学校
3年 渡部 雄太郎

国語の授業の中で集中して練習していましたが、納得できる作品が作れず、家に帰ってからかなり頑張って仕上げたようです。雄太郎君らしい伸びやかさと躍動感を感じるすばらしい書作品だと思います。

指導者 大塚 初美

絵

『不思議な世界の仲間達』



会津美里町立新鶴小学校
4年 海野 匠

生き物はこんな仲間がいたらいいなというイメージを広げて、豊かな発想を素直に表現できるようにしました。主役の想いが彩色に表われていて素晴らしさを感じます。

指導者 目黒 知恵美

私の抱負



磐梯町ALT
アーサー・エアース

私は磐梯町に来て、英語を教えるということだけではなく、地域や社会の様々な活動に深く関わることができました。

磐梯町は町独自の幼小中一貫教育のためのカリキュラムを実施しており、私の出身地のカナダ国オリヴァー市と姉妹都市の関係をつなぐために来町できたことは本当に幸運なことです。

日本では「教師」というのは合理的に知識や技術を教えるだけではなく、先に生まれた者が人間を育てる「先生」でもあります。私自身も「先生」として言葉や文化を理解しようとする努力の重要性を実感しています。

磐梯町とJETプログラムがそれらを学ぶ機会を与えてくださったことに感謝しています。



北塩原村ALT
コートニー・クリック

私は今年七月にニュージーランドのオークランド大学を卒業しました。大学では、英語を専攻し、日本語を副次科目として学びました。大学での研究を通して、日本語と同時に日本の文化やライフスタイルに強い関心を抱きました。幸運にも今こうして日本の教室で私の希望を実現することができ、たいへん嬉しく思います。

日本の学校ではカリキュラムと入学試験への対応のために厳しい教育スケジュールがあり、教科書に従わない英語の授業がほとんど無いことが分かりました。

私の役割は、子どもたちが英語をおもしろいと感じ、間違えることを恐れずにコミュニケーションを楽しめるようにすることだと思います。グローバル化する現代、英語はますます重要なものとなってきています。世界中の人々とコミュニケーションできるような子どもたちを、私は育てていきたいと思っています。



会津美里町ALT
ライラン・ワタナベ

私は、日本に到着した時、大きな変革を心に抱き、目標を立てました。生徒たちは私の革新的なアイデアと指導法で、きっと魅了されるでしょう。そして、すばらしい英語を身に付け、英語を学ぶことが大好きになるでしょう。でも予想に反して、英語で質問をした後に、生徒達は私から顔を背けたり、廊下で私を見かけると遠ざかったりしました。授業もうまくいきませんでした。この三ヶ月間、私は自分が金八先生でもヤンクミ先生でもないことを知りました。私は、英語の授業法のみならず、ALTとしての目的を忘れていたのです。本当に重要なことは偉大な奇跡を成し遂げようとするよりも、小さなことの積み重ねであることに気がきました。廊下ですれ違った時には笑顔で下ですれ違った時には教室ではほめたりアドバイスをしたりする機会が大切なのです。この小さな努力を積み重ね、目標を達成することを目指し、私の思い描く理想の教師になれるよう努力したいと思っています。